

# 自分らしく生きられる社会を目指して

## ジェンダー平等推進

### ジェンダー平等って？

毎日の生活の中で、男性の役割、女性の役割が決められていて、窮屈に感じたり、どうしてだろうと思ったりすることはありますか。

性別で判断されてしまうことで、一人一人が持っている能力を發揮できなかったり、可能性が狭められたりなど、人権が尊重されないようなことが起こることがあります。

一人一人の経済的な自立と幸せの追求、そして、持続可能な誰一人取り残さない社会づくりのために、ジェンダーに基づく無意識の偏見や、固定的な性別役割分担意識を解消し、ジェンダー平等を推進することは、とても大切なことです。

### 意識は変わってきているけれど…

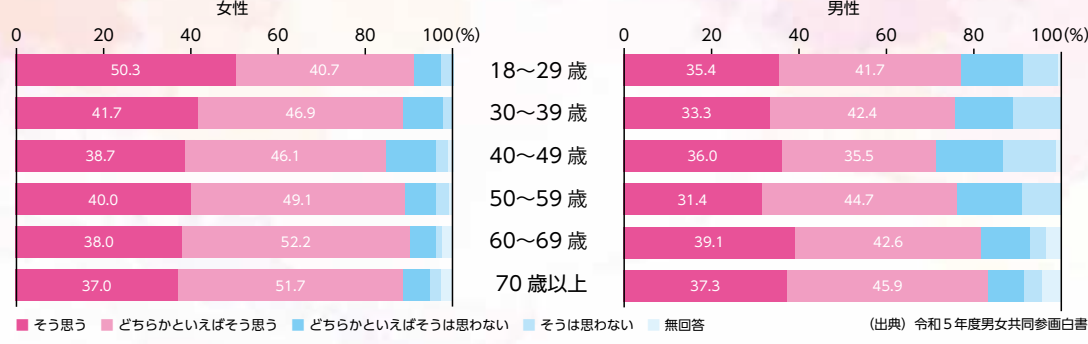
鹿児島県が実施した最新の県民意識調査では、男女共に固定的な性別役割分担に対する意識の変化が見られます。しかし、家庭における実際の役割分担については、家事・育児・看護・介護などのケア役割は、依然として妻に偏っている現状があり、「意識」と「現状」に差があります。

### 多様な人材が働きやすい職場？

国の調査結果から、男女共に、女性に家事・育児などが集中していることが、職業生活において女性の活躍が進まない理由と考えているようです。

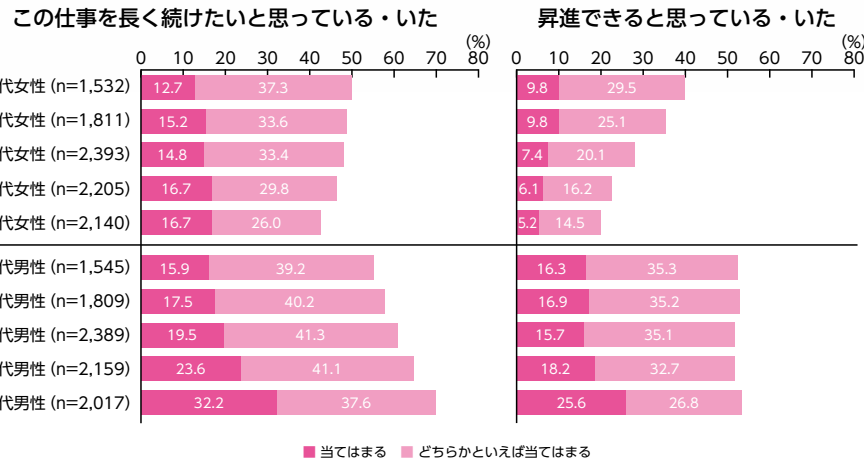
### 職業生活において女性の活躍が進まない要因

＜育児や介護、家事などに女性の方がより多くの時間を費やしていること＞

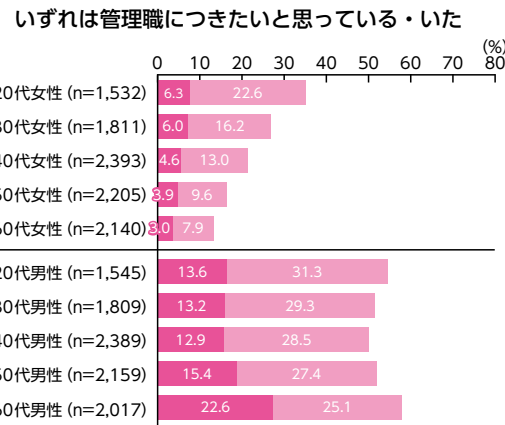


女性の8割以上、男性の7～8割が、女性に家事・育児などが集中していることが、職業生活において女性の活躍が進まない理由として考えています。

近年「ワークライフバランスを実現できるか」などの働き方は、若い世代が企業を選択する際の重要なポイントの一つとなっています。性別だけでなく、時間や健康面に制約がある人などさまざまな両立が可能になると、企業にとっても多様な人材を確保でき、その多様な能力を最大限に發揮できることで、個人の幸せと



### 仕事の継続希望、昇進希望(20代時点での考え方)

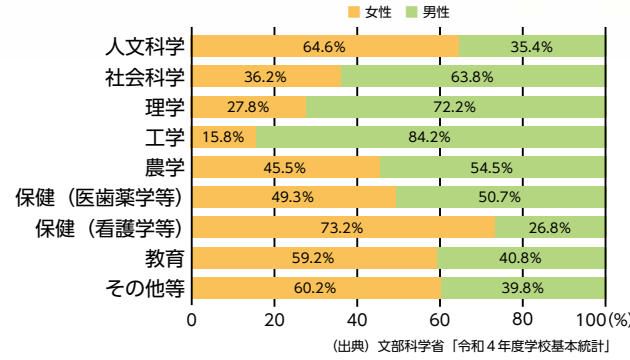


仕事での昇進などについて、20代時点での考え方をみると、3つの項目共に男性は、年代の差はあまりありません。女性は、若い年代ほど、長く続けたい、昇進できる、管理職につきたいと思う女性が増加しています。しかし、現状では、女性の正規雇用比率は、前述のとおり出産後に低下する傾向にあります。

企業成長を共に実現していく原動力となります。家庭でも仕事でも、結婚していてもしてなくても、子どものいる人もいない人も、性別にかかわらず誰でも、自分が望む生き方ができる社会の実現のために、女性活躍推進を女性だけの問題とするのではなく、みんなで取り組みましょう。

また、国の調査から教育の分野でのデータでは、女性の大学や大学院への進学率は上昇していますが、男性の進学率と比べると依然として低い状況にあります。例えば、「理系の分野は男性に向いている」「女性だから学歴は必要ない」などのジェンダーによる思い込みから平等な学習機会を妨げていることがあるかもしれません。「その子らしさ」を基準にすることで、多様な選択ができる。将来の可能性を広げることにつながります。

### 大学(学部)の学生に占める女性の割合



大学(学部)専攻の男女比では、理学や工学の分野で女性の比率が少なく保健の分野で多いなど、男女の偏りが見られます。

### 女性活躍推進は

### 働く場でのジェンダー平等推進

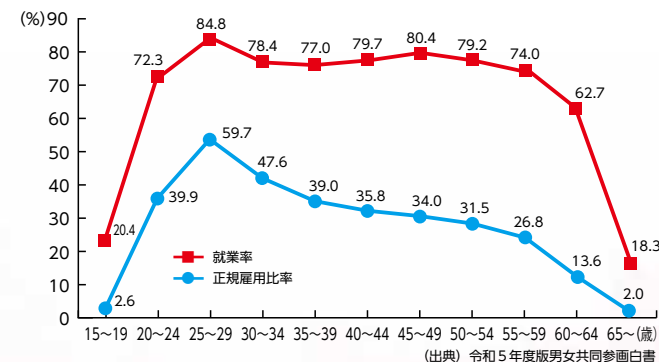
単独世帯とひとり親世帯が全体の世帯数の約半数を占め、共働き世帯が専業主婦世帯の3倍近くとなっています。家族の形や、価値観も多様化し、人口減少が加速化している社会の中で、女性活躍推進は、単に女性管理職を増やせばいいというだけの話ではありません。働きたいと希望する人が性別を問わず誰でも働ける社会を目指すものです。

これまでの「男性は仕事、女性は家庭」という固定的性別役割分担による男性中心を前提とした労働慣行では、女性ももっと活躍したいと望んでも、家事や育児の負担が女性に偏り、能力を生かせません。また、上司の無意識

問合先／コミュニケーション課  
生涯学習・ひとみらい政策G  
(内線4741)

の思い込みにより、子育て中の女性への配慮が、本人の意に反して、意欲・能力を生かすことができないなど、企業にとって大きなマイナスとなるようなケースもあります。

### 女性の年齢階級別正規雇用比率(令和4(2022)年)



女性の正規雇用比率は、25～29歳の約60%をピークに年齢とともに下がる「L字カーブ」を描いています。

また、出産をきっかけに女性が働き方を変える、もしくは、一度退職し、子どもが大きくなったなら非正規雇用労働者として、再就職するケースが多い現状もあります。

### アドバイザーを派遣します 働きやすい職場へつなごう

女性活躍推進って「何から始めたらいいのだろう」「取り組みたいけど現状では難しい…」と考えている企業などの皆さん、一度、現状をお伺いする専門家のヒアリングから始めてみませんか。市ではジェンダー平等推進アドバイザーを派遣しています。アドバイザーによる助言や研修により、多様な働き方を可能とし、働きがいから業務効率化を図れる職場づくりの第一歩としてご利用ください。



### 男女共同参画センター

SSプラザせんだい(平佐一丁目)1階にある男女共同参画センターでは、女性相談窓口や、男女共同参画に関する情報提供、セミナーなどのイベントを実施しています。また、生活用品の無償提供をし、一人で悩み、相談できないと思われていることなどのご相談も受け付けています。

ジェンダー平等推進に関する出前講座の活用や、ひとみらいセミナーなどへのご参加をお待ちしています。詳しくは市ホームページをご覧ください。

